

～現地レポート～

キュウリでの植物活力資材使用事例

1. はじめに

当社では微生物培養液をベースとした液肥や資材を『植物活力資材』と称して開発・製造・販売しており、全国各地域の生産者の皆様にご利用頂いております。生産者の方々の中には作物ごとに栽培に合わせて独自で管理と工夫をしながら、収量性・品質等により効果の上がる使い方を実践されている方も多くおられます。今回は東北地方で素晴らしい結果を得ているキュウリ生産者の皆様の事例をご紹介します。

2. 「闘根242」による根張りと生育の良さ

「闘根242」は育苗・定植期にターゲットを絞った商品です。

主成分は乳酸菌培養液からの抽出成分で、複合肥料の登録をしており、発売以来ウリ科やマメ科、アブラナ科などの根張りと活着の良さに好評をいただいています。

キュウリへの使用法は、定植直前～3日前に1回、苗を「闘根242」500倍希釈液にどぶ漬けするか、鉢の中が「闘根242」希釈液で浸るように上から灌水した後で定植します。「闘根242」は、希釈液が根にしっかりいきわたるように施用する事が大切です。

写真1は、4月初旬に定植、4/21撮影の半促成



写真1 キュウリの初期生育 (宮城県栗原市)

無加温栽培の写真です。左側の写真が無処理区、右側の写真が「闘根242」処理区です。闘根どぶ漬け処理後の定植は活着が良く無処理区に比べて生育が良い事が分ります。

3. 「ジャックスパワー-554」と「SS-374」の混合施用

続いて、「闘根242」で根張りを良くしたキュウリに、収穫始めから2週間毎(防除毎)に、機能性液肥「ジャックスパワー-554」とアミノ酸液肥「まるまるアミノ332」を葉面散布しました。「ジャックスパワー-554」は2,000倍希釈、「まるまるアミノ332」は1,000倍希釈を基本としています。なお、銅剤・強アルカリ剤以外の農薬との混用が可能なので、省力的に施用できます。

「ジャックスパワー-554」の主成分はシイタケ菌深層培養液や植物抽出物に含まれる栄養素で、今回の試験では分枝の発育や花芽の着生などを良好にし、植物の体づくりに力を発揮しました。

「まるまるアミノ332」は植物由来のアミノ酸液肥で、低分子アミノ酸が多く含まれ、葉から素早く吸収されます。光合成促進や植物体内でのタンパク・酵素合成に即効的な資材です。

写真2は、6月上旬定植、7/16撮影の露地作夏秋取り作型の写真です。この方は試験的にジャックスパワー-554を1,000倍で毎週散布されていました。



写真2 闘根242+ジャックスパワー-554+SS-374処理区 (秋田県湯沢市)

これは通常より2倍濃く、回数も2倍散布されています。そのためキュウリの反応が顕著で、花芽（特に雌花）の量が非常に多くなりました。

写真3は5月下旬～6月上旬定植、9/24撮影の露地作夏秋獲り作型の写真です。収穫も終盤になり、無処理区は葉が枯れ落ちてきた状況ですが、「鬮根242」をドブ漬けする事で根張りを良くし、「ジャックスパワー554」と「まるまるアミノ332」により体力のある体づくりをした結果、無処理区に比べ樹勢を維持できていることが示されました。

このように、これら3種類の植物活力資材「鬮根242」「ジャックスパワー554」「まるまるアミノ332」のキュウリへの施用は各ステージで生育の手助けをし、多くの方に樹勢維持・回復や収穫期間の延長などを実感して頂きました。

4. 収量調査の一例

最後に、雫石町Oさんのデータを少し詳しく紹介致します。

今回の現地試験では多くの生産者の皆様にご協力いただき、日々の収量を記録頂きました。ご協力頂いた生産者は増収の手応えを実感できる結果となりました。Oさんは、露地作夏秋取りの作型で灌水設備があり、今年の東北の干ばつの被害も最小限に管理できました。定植は6月上旬で、前述した施用方法通り「鬮根242」「ジャックスパワー554」「まるまるアミノ332」試験してくださいました。その結果、グラフ（図1）の通りほとんどの日で処理区の収量が上回っており、最終収量も処理区の収量が2割増しの結果となりました。

5. むすび

今回ご紹介した弊社の『鬮根242』は、定植時の低温や干ばつなどストレスのかかる条件でも活着が



写真3 左：無処理区 右：鬮根242+ジャックスパワー554+SS-374処理区 (秋田県横手市)

進みダメージの軽減の一助になると確信しております。特に根量はその後の生育に大きく影響し、浸漬処理が十分であるほど生育の勢いは良かったと感じました。

また、「まるまるアミノ332」の葉面散布後は日照不足のダメージが軽減されていた他、「ジャックスパワー554」葉面散布後は良好な着花が認められ、天候条件の悪化によって停滞しがちな分枝の発育や樹勢も回復する傾向が認められました。そしてこのように特性を活かしてご活用いただいたことにより、作物生育の各ステージでの体づくりに貢献できる資材であることを実感していただくことができました。

『鬮根242』で根を充実させ養分吸収や根の活性物質生産を促し、『ジャックスパワー554』と『まるまるアミノ332』の葉面散布で光合成や体づくりの手助けをする二段構えだからこそ、どの地域でも同様の反応が得られたと考えられます。

最後に、今回ご紹介した内容は、お客様の作物に対する観察眼や管理の工夫により得る事ができた貴重な技術情報です。ご協力いただきました方々には御礼を申し上げますと共に、今後とも弊社の『植物活力資材』をご愛顧頂けますよう宜しくお願い申し上げます。

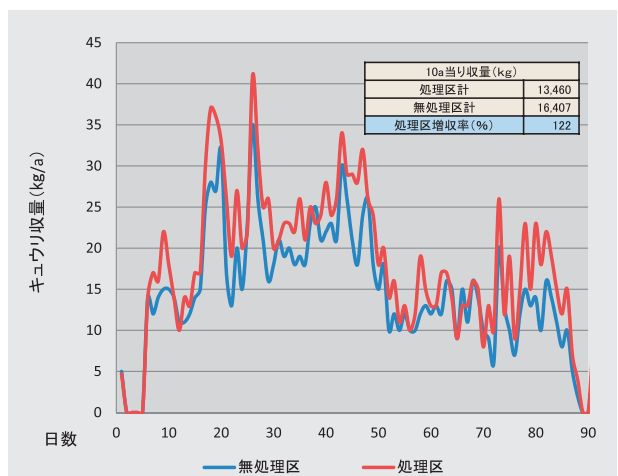


図1 機能性液肥処理によるキュウリ収量 (雪印)

